



ファンタジー
クエスト



HIRO

ついにこの時がやってきた。

思えば長い日々だった。

城からさらわれた、姫を追って、どれくらいの時が経っただろう？

ついに僕達は魔王の城へと辿り着いたのだ。
そして目前には、城へとかかる大きな橋がある。

「どうする？」

僕はみんなに相談することにした。

「ここは、慎重に行くべきじゃないか？」

「忙がば回れって言うしな」

「いや、城は眼の前なんだ。ここは積極的に行こう！」

様々な意見が出される。

僕はリーダーとして、最後の決断を下した。

「よし！このまま直進だ！」

ここまで来て、迷う事などあるものか！敵は目の前なんだ。
皆も僕の意見を尊重してくれた。
これまでの実績が、信頼に結びついているのだろう。

さてと・・・・・・・・

こういう場合、まず先頭に行くのは、「ロビン」の役目だった。

彼は盗賊ギルドでトラップのスキルを習得しており、
こういう場面ではうってつけの人材だ。

「ちょっと見てくるよ」

頼む。そう言って彼を送り出す。

彼は慎重に歩いて行き、橋の真中まで来た時に叫び声と共に消えた……。

橋は真中までしかかかっていなかったのだ。

すべては魔王が見せた幻影だったのだ！

「なんてことだ……」

僕は自分の考えの浅はかさを後悔し、

そして同時にこれから先の自分達の末路に絶望を覚えた。

「どうするんだ、リーダー！？」

ロビンが居なくては、魔王の城を攻略することはほぼ不可能だろう。

「と、とりあえず後退する！！」

そういいながら僕は後ろを振り向いた。

その瞬間！

僕達は炎に包まれていた。

「な、なんでこんな事に……」

仲間たちの苦悩の音が聞こえてくる。

僕たちは失敗してしまったのだ……。

「あーもう、これで何回目なの！？」

そうこれで僕達のパーティーはもう3回目の全滅だ。

「やっぱり、お前がリーダーってのがマズイんじゃないの？（笑）」

「そう言わないでよ。（苦笑）」

ふう、やっぱり「ファンタジークエスト」は難しいなあ。

「ファンタジークエスト」は去年の暮れに、

某メーカーから鳴り物入りで発売されたオンラインRPGだ。

当時はユーザーの思考とサーバーを直接繋げるシステムに、様々な批判中傷が相次いけど、

時間の経過と共に誰も何もいわなくなった。まあ大ヒットしたからだけだね。

てか、すでにかかなりの時間この世界に入り込んでるけど、

リアル時間どれくらいたったんだろう。。。？

: 2xx2年 9月10日 売買新聞:

「意識不明の子供達奇跡的に助かる！」

1週間前にファンタジークエストを始めてから

ずっと昏睡状態だった子供達が奇跡的に生還した。

この1週間子供達は「ずっとゲームで遊んでいた」と話しており

関係者を大変驚かせている。

今回の事件で、安全性に問題はないと主張していた

メーカー側の言い分が覆されたことになり

「ファンタジークエスト」の稼働中止命令が今日中にも出される見込みだ。